

ジョイント V 字樹形によるナシ「甘太」の早期成園化

福島県農業総合センター果樹研究所 栽培科

1 部門名

果樹—ナシ—整枝・せん定

2 担当者名

佐藤寛人、額田光彦

3 要旨

ナシ「甘太」は、食味が優れることから全国的に注目されている晩生の新品種である。そこで、現地での導入を推進するため、早期成園化技術であるジョイント V 字樹形について実証したところ、定植後 3~4 年目で成園並の収量（目標収量 4,000kg/10a）が得られた。

- (1) 定植後 3 年目から収量が増加し、4 年目には 10a 当たり約 3,800~4,600kg の収量が得られ、果実の大きさは 450~500g と、概ね標準的な果実が生産された（図 1）。
- (2) 苗木の長さに応じて植栽距離を調整したところ、1 年生苗は 0.7~0.8m、2 年生苗は 1.2~1.3m 間隔の植栽となった。また、定植後 2 年目には必要な側枝本数が確保され、以後、側枝の生育が進むにつれて収量が増加した（表 1）。なお、収量、果実品質、花芽の着生については、苗木の違いによる差は認められなかった。

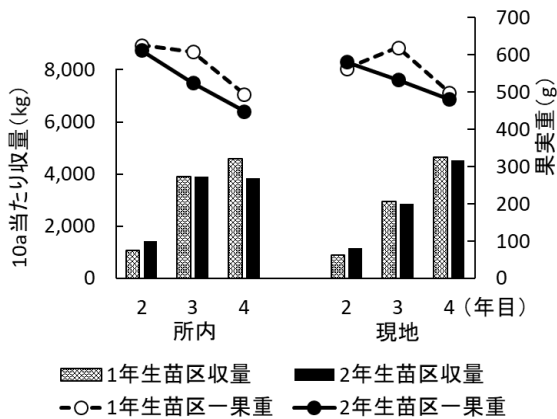


図 1 所内及び南相馬市現地ほ場の 10a 当たり収量と果実重の推移

表 1 所内及び南相馬市現地ほ場の樹体生育

		幹周 (cm)	平均主枝長 (m)	平均側枝数(本/m)			平均側枝長(cm)		
				2年目	3年目	4年目	2年目	3年目	4年目
所内	1年生苗	14.4	0.7	8.9	9.4	9.1	130	175	192
	2年生苗	15.0	1.2	8.0	7.3	8.6	93	132	174
現地	1年生苗	13.6	0.8	7.6	6.3	6.6	145	195	238
	2年生苗	15.1	1.3	7.2	7.2	7.5	116	151	208

4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和 3~5 年度
- (2) 研究課題名 ジョイント V 字樹形の導入による果樹の早期成園化と省力化
〔食料生産地域再生のための先端技術展開事業(JPJ000418)〕
〔農林水産分野の先端技術展開事業(JPJ009997)〕

5 主な参考文献・資料

- (1) 南ら, ナシジョイント V 字樹形定植 2 年目の果実生産性, 令和 2 年度参考となる成果